**アーネスト・サトウ（1843-1929） (左）**

アーネスト・サトウは、ガイドブック、新聞記事、個人的な推薦などを通じて、奥日光をはじめとする日本の多くの地域を欧米の読者に紹介した。サトウの社会的ネットワークは広く、彼の知人には多くの有力者がいました。日光や中禅寺湖を訪れることを常に勧めていた。

サトウは1862年にイギリス公使館の通訳として来日。1872年に初めて日光を訪れたサトウは、横浜に戻ると、横浜在住の外国人に広く読まれている新聞『ジャパン・ウィークリー・メール』に日光の魅力を4回にわたって紹介しています。1875年には『日光ガイドブック』を出版。

1883年に赴任のため出国し、1895年には特使・全権公使として復帰した。1896年には中禅寺湖南岸に夏の別荘を建てた。1900年に中国に赴任したサトウは、別荘の所有権を後継者に譲った。当時から2008年まで英国大使館の別荘として使用され、その後も幾度となく改修・増築を重ねてきたが、2010年に栃木県に寄贈された。現在は「英国大使館別荘記念公園」として一般公開されている。

写真は、サトウの奥日光に関する情報が書かれた2冊のガイドブック『日光ガイドブック』（1875年）と『中部、北部日本旅行者のためのハンドブック』（1881年）のタイトルページ。その下には、サトウの『奥日光ガイドブック』（1875年）と『日本の旅人のためのハンドブック』（1881年）のテキストの多くを取り入れた『Murray's Handbook Japan』（00年、赤本）がある。この地図はMurray's Handbook Japanに含まれているいくつかの地図のうちの一つである。

写真はサトウの中禅寺湖別荘の南側、1899年頃。

\* \* \*

**イザベラ・バード（1831-1904） (右）**

イザベラ・バードはイギリス人の旅行者、探検家、作家で、遠く離れた目的地、特に地方や山岳地帯を旅することで知られていた。彼女は1878年6月に日高と奥日光を訪れ、1880年に2巻に分けて出版された『Unbeaten Tracks in Japan』の中で、奥日光の文化と自然の豊かさを紹介している。

彼女はサトウの助けにより、日光で「あらゆるものを見てきた」と述べている。助手のイトウがマスを探してくれていた（旅人は宿泊した旅館の食事の材料を自前で用意することが多い）ことなど、その地域の魚の状況が語られている。湯本温泉へは、中禅寺街道がまだ段差の多い細い道だった頃、740号線を登って行ったという。日光に戻る前に華厳の滝を訪れた彼女は、"席と食料 "があった場所で、約200フィート下ったジグザグ道に言及しています。これは、星野五郎兵衛が滝の盆地への道を切り開き始める5年前のことであった。

展示されているのは、『日本奥地紀行』（明治11年（1878年）から書かれたもの）の3刷り。

左）1881年版

中央) 1900年版

右）2000年版

本の下には、彼女が湯本温泉を訪れたことを描いた(バイバード)セクションのイラスト (左) とバードの日本旅行の地図 (右) がある。